

授業改善のイメージ（国語科）

本年度の研究テーマ 見通しと振り返りの往還による授業改善
～「思考力・判断力・表現力等」の評価方法の充実～

授業改善を行う領域・内容

「書くこと」の領域を主とした

「考えの形成」のための、「主張」を支える「根拠」の在り方

設定理由

現行の学習指導要領では、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられた。それは、言語活動の推進によって生じた活動するだけに終始する授業を抑止し、活動の中で自分の考えをもつこと、そして、その考えの根拠やその考えに至った論理展開を見つめることの重要性を再認識させるものである。そこで、本年度は、「書くこと」の領域を主として、学習者が「主張」を支える「根拠」を見出し、自身の伝えたいことを明確にしたり、構成を検討したりする段階に着目し、研究を行っていく。

授業改善の方針

(1) 学習者の実生活や社会の中で考え得る言語活動の設定および題材の工夫

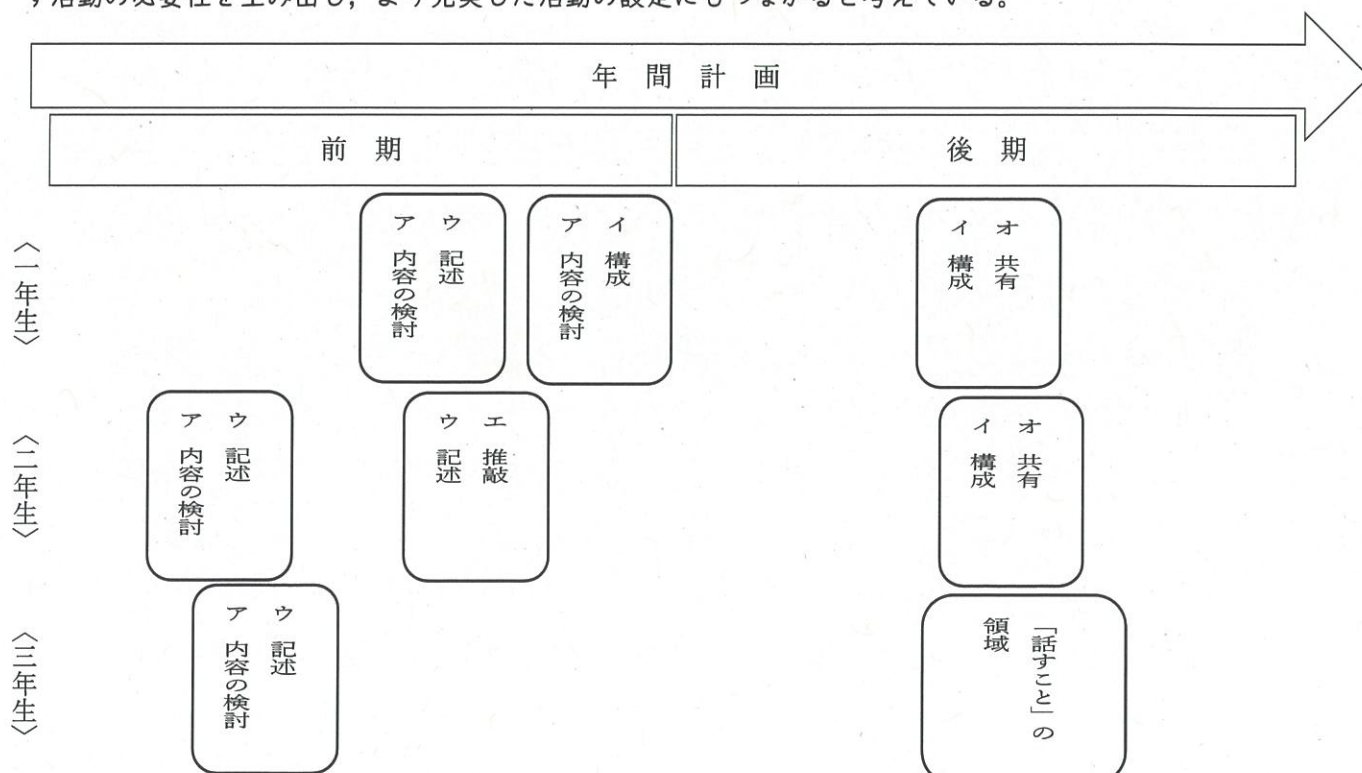
学習者の書きたい、書いてみたいという欲求を喚起する言語活動の設定と題材の工夫に努める。

(2) 「思考・判断」を促し、明確にできるワークシートの工夫

学習者が何について、どのように考えて内容を決定し、その内容をどんな順番、どんな表現で書こうと決めたのか、その理由も含めた「思考・判断」を可視化できるワークシートを作成していく。

(3) 「思考・判断・表現」の質に着目した評価基準の設定

根拠の数ではなく、根拠となる情報の内容や情報の特徴等に着目して「思考・判断」している様子を見取ることのできる評価基準の設定を試みる。この評価基準の設定が、学習者にBやAのような「思考・判断」を促す活動の必要性を生み出し、より充実した活動の設定にもつながると考えている。



前期の成果

- (1) 1年生…夏に役立つ必須アイテムの紹介文を書く。

この夏開催された「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」に対する若者の関心度についてのアンケート結果の原因を分析し、レポートを書く。

- 3年生…人口減少が喫緊の課題であるH市に対して、人口増加の手立てとして、A案(単身者へのサポート)とB案(子育て家庭へのサポート)のどちらが効果的な施策であるかを決め、説得することを目的とした推薦文を書く。

1・3年生では、自身の興味関心や実生活と関連付けたり、日本と海外やH市と他の市町村を比較したりと、さまざまな情報を根拠としようとする姿が見られた。興味関心を喚起することはもちろんながら、多方面から情報を収集したことで、その情報の根拠としての適切さを考えさせることにもつながった。

- (2) 前期の実践を受け、「根拠」の羅列で終始してしまい、

「根拠」をどう解釈し、意味づけ、主張までつなげていくのかという、解釈・意味付けを生徒が行えていないことが明らかになった。そこで、松下佳代教授が提唱している「対話型論証モデル」に着目した。モデルの全容を用いることもあれば、一部だけを用いる場合もあるが、共通しているのが、事実(根拠)と主張だけでなく、事実をどのように解釈したのか論拠を明記するという点である。事実(根拠)、解釈(論拠)、考え(主張)が明確になることで、根拠の解釈に大袈裟なものはないか、根拠が主張を支えるものと成り得るのかという検証がしやすくなった。また、ワークシートによって、内容の「思考・判断」がなされていることから、「表現」するに入る際、かなりスムーズに取り組むことができていた。

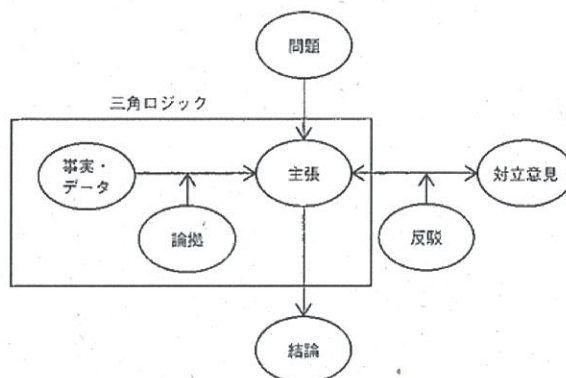


図 1-1 対話型論証モデル

- (3) これまでの単元では、材料の整理の段階で「B 情報を比較か分類のどちらかの方法で整理」「A 比較・分類の両方の方法で整理」、材料の客観性や信頼性の確認の段階で「B 個々の情報について吟味している」「A 情報と情報の関係性を踏まえて吟味している」といった設定した。根拠がいくつ出せたかではなく、材料をどのように考えて根拠としたのかという思考の質によるB・Aの設定を試みたことによって、根拠の数ではなく、根拠の内容に着目した吟味が行えるように授業を組み立てることにつながった。

前期の課題

- (1) 今後の学習者と社会の現状を照らし合わせた課題の設定に取り組む。教科横断的な課題の開発も行っていく。
- (2) 特に1・2年生は、まだ3つの要素が理解できず、とまどっている場面がある。書くことだけでなく、読むこと、話すことにも使用場面を増やしていく。現在は、「対話型論証モデル」の一部のみを使用しているため、2年生以降は異なる意見に視野を広げるためにも、自身の考えの形成の部分だけでなく、異なる考えの予想の部分にも使用範囲を拡大していく。
- (3) 上記の設定では、「知識及び技能」の情報と情報の関係とつながりが深いものとなったものもある。これを「思考・判断・表現」の評価基準に組み込んでいいのかは疑問が残る。今後、先行研究等を収集していきたい。

後期の成果

- (1) 1年生…入学からの自分について考え、事実と意味づけを明らかにし、構成や表現を工夫した随筆を書く。

3年生…今の日本に必要な法案を考え、多様な考えをもつ相手を説得するために内容や構成、表現にまで工夫をしたスピーチを行う。(話すこと)

1年生は実生活に着目した課題、3年生は社会生活に着目した課題を設定することができた。

- (2) 1年生は、新たなワークシートの形式の模索を行った。その際、これまでの出来事を事実として挙げ、その意味付けを行う部分を設け、主張までのつながりを明らかにしようと試みている。これによって、事実のみではなく、事実の意味付けをバランスよく書くことにつながった。

3年生は、「話すこと」の領域で実施し、前期でも活用してきた「対話型論証モデル」を活用した内容の検討を行った。これによって、領域を超えて、情報の収集・内容の検討の段階で同じワークシートの活用が可能であること、また、生徒のこれまでの学びを活かすことができることを確認することができた。ふりかえりシートの記述にも、「対話型論証モデルによって自分の思考が明確になった」「今後も活用していきたい」など、思考の型としての有用性を感じたものが見られた。また、情報の客観性や信頼性について「書くこと」で学んだことを活かしたという記述も多く見られ、領域を超えた学習の連続性を確認することができた。

このように、根拠だけでなく、その根拠の解釈や意味付けを記述するワークシートを作成したことで、生徒が根拠の有無だけでなく、根拠からどのように主張につながっているかという論理の展開に着目することができるようになるとともに、教員が見取ることもできるようになった。

- (3) 3年生では、「多様な考えをもつ相手を想定する」という部分に着目し、「対話型論証モデル」の右側「対立意見」と「反駁」を評価に用い、反駁の内容で基準を設定した。記述内容で明確にできるため、評価のぶれはなく行うことができた。

後期の課題

- (1) 課題の設定では、社会生活に視野を広げると内容が他の教科と重複することがある。その他の教科のカリキュラムを確認し、互いにより影響があるよう設定する必要がある。
- (2) 現在作成しているワークシートの汎用性を図っていく必要がある。特に、「書くこと」と「話すこと」は両方アウトプットの学習過程であることから、親和性が高い。この二つの領域については、より多くの場面で、同じワークシートを活用していくようにしたい。また、情報として集めた事実やデータの中からは、どうしてその情報を根拠として決定したのかという「思考・判断」を見取ることがまだ難しい。これについては、生徒のふりかえりに記述させたい部分であると考えている。活動の中でどのように「思考・判断」したのかを「表現」させることは俯瞰的なふりかえりの実施につながっていくと考えている。
- (3) 前期の課題であった「知識及び技能」を基準に組み込んでいいのかは、今度も資料を収集し研究していく必要がある。また、3年生は、義務教育の最終学年であり、その指導事項も最終段階にあるため、その上のAを設定することが難しい。この点についても、今後考えていく必要がある。

来年度に向けて

今年度は主として「書くこと」の領域に絞って授業実践を行ってきたが、成果にも示した通り、アウトプットの学習過程である「話すこと」にも十分転用できる。そこで、本年度の研究の成果である「対話型論証モデル」や事実と意味付けを書き分けるワークシート等による根拠を明確にして内容を検討する過程については、領域を拡張して使用していきたい。また、三領域の考えの形成の過程や「読むこと」の精査・解釈にも活用できると考えており、現在あるワークシートをより汎用性の高いものにできるよう実践を重ねていく。

また、評価基準については、引き続き、個数ではなく質による設定にこだわって試みていきたい。

引用参考文献

松下佳代(2021)『対話型論証による学びのデザイン 学校で身につけてほしいたった一つのこと』勁草書房

作成者：釘宮 里枝（くぎみや りえ）・門脇 舞（かどわき まい）

国語科学習指導案

令和5年5月28日(火)6校時

3年A組 40名

指導者 釘宮 里枝

1 単元名 私は、〇案を推薦します!

2 単元設定の理由

(1) 教材について

・言語活動は、「二つの案で迷っている相手に対して、より確実に効果的な案はどちらかを選択し『推薦文』を書く」と設定する。第3学年では、多様な考えを持っている人がいることを想定するとともに、読み手となる相手を説得することが求められる。本活動も、異なる立場がいることを前提としながら、迷っている読み手を説得することを求めるものである。

・題材は、人口増加のために導入すべき案を「単身者」と「ファミリー」という支援の対象者に絞って比較するというものである。現在、多くの市町村が抱える人口減少についての施策案であるため、実施した例も含め、さまざまな情報が収集できると考えられる。

・行政の施策として取り入れることを想定しているため、より確実に効果的な案を導入する必要があるため、その確実性と効果の高さを、根拠を示して証明する必要がある題材である。

(2) 生徒について

・昨年度の「話すこと・聞くこと」の授業「中学生は『日本のコロナ対策』をこう総括する!」では、異なる立場の人と合意形成を行いながら建設的な議論を行う方法を学んだ。この学習の振り返りから、異なる立場を想定することや異なる立場の意見を聞いたり読んだりすることの重要性を認識している学習者が多数いること、また、異なる立場が考える活動への意欲が高まった学習者がいることがわかった。

・事前アンケートでは、「根拠の適切さや確かさを意識し、確認しているか」という質問には90%以上が肯定的な回答をしたが、「根拠の適切さや確かさの確認方法について、自分なりの方法を持っているか」という質問には28%が否定的な回答をした。確認はしているが、その方法が確立はしていない学習者もあり、自己流のものになっている可能性もある。

・ICT機器を使って収集した情報を自分の考えの根拠として用いる際、比較的安易に入手できる情報のみを使用する傾向にあり、その情報の客観性や信頼性を確認し、再度情報収集を行うといった姿は見られない。この部分については、上記の学習者の意識と実際の学習の姿に乖離があると考えている。

(3) 指導について

・総合的な学習の時間では、第2学年から現在にかけて大分県の多くの市が直面している人口減少について触れ、考える場を設定している。その題材を共有することで、学習者の興味関心を引き、これまでの学習を活かすこともできるという意欲喚起につながると考えている。また、対象者が異なる二つの案に絞り、どちらがより確実に効果的かを考えることにより、異なる立場の想定がしやすくするとともに、自分の立場を説得するイメージを持ちやすくする。

・一つひとつの情報の発信元や発信時期など情報の出典に関することによる信頼性の確認はもちろん、数値により傾向を捉える方法や複数の具体例によって確実性を示す方法など、情報の特徴や情報と情報の関係において根拠として適切かも考えさせたい。

・上記のことを考えさせるために、読み手を説得する根拠の「強さ」に着目させ、班ごとに自分たちで集めた情報の上位を決定し、理由とともに交流する。上位に決定した理由から、より強い根拠のために必要となる情報の客観性や信頼性について学び、自身が収集した情報が根拠として強いものになっているかを考えさせる活動を行う。

単元プランシート(国語科3年)

実施時期 5月

単元名	私は、〇案を推薦します！	
単元の目標	相手を説得するために必要となる客観性や信頼性の高い根拠の選択とその引用の工夫を、2つの案のどちらかを推薦する文を書くことを通して、行うことができる。	
評価 規 準	知・技	①情報の信頼性の確かめ方を理解し、使うことができる。
	思・判・表	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(書くこと一ア) ②資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(書くこと一ウ)
	主体	①目的や意図に応じて、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしようとしている。 ②表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えをわかりやすく伝わる文章になるように工夫しようとしている。 ③学習目標に照らして学習の状況を把握し、今後の課題について具体的に示している。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1	〇人口減少が進むH市に提出されたA案・B案について知り、どちらの案を推薦するかを決め、その理由を考える。			
2～4 (本時3)	〇自分の考えを支える根拠となる情報を収集する。 4つの情報を集め、情報源を明記する。			
	〇収集した情報について、根拠としての「強さ」で上位になるものはどれかを考える。		① ワークシート	① 観察
	〇再度、情報を収集し、説得するために伝えたいことを明確にする。	① ワークシート	① ワークシート	① 観察・ワークシート
5～7	〇今回推薦文として使用する構成について知る。		② ワークシート	② 観察
	〇収集した情報の中から引用するものを決め、学習した構成のどの部分に位置付けるのか考える。		② ワークシート	② 観察・ワークシート
	〇推薦文を書く。			
8	〇お互いに違う案を選んだ人に読んでもらい、相互に評価し合う。			
	〇ワークシートおよび推薦文を用いて、単元の振り返りを行う。			③ 振り返りシート
外	定期テスト	①テスト		

評価基準(思考・判断・表現に①について)

B	A
個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。	Bに加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認し、伝えたいことをまとめている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(3/7)

(2) 題材「〇案を推薦します!」(自分の考え)を支える根拠を探そう。

(3) 本時のねらい

自分の考えを支える根拠となる情報の客観性や信頼性を、同じ立場の人が収集した情報を比較したり、異なる立場の人と互いの情報への意見を交流したりする活動を通して、確認することができる。

(4) 展開

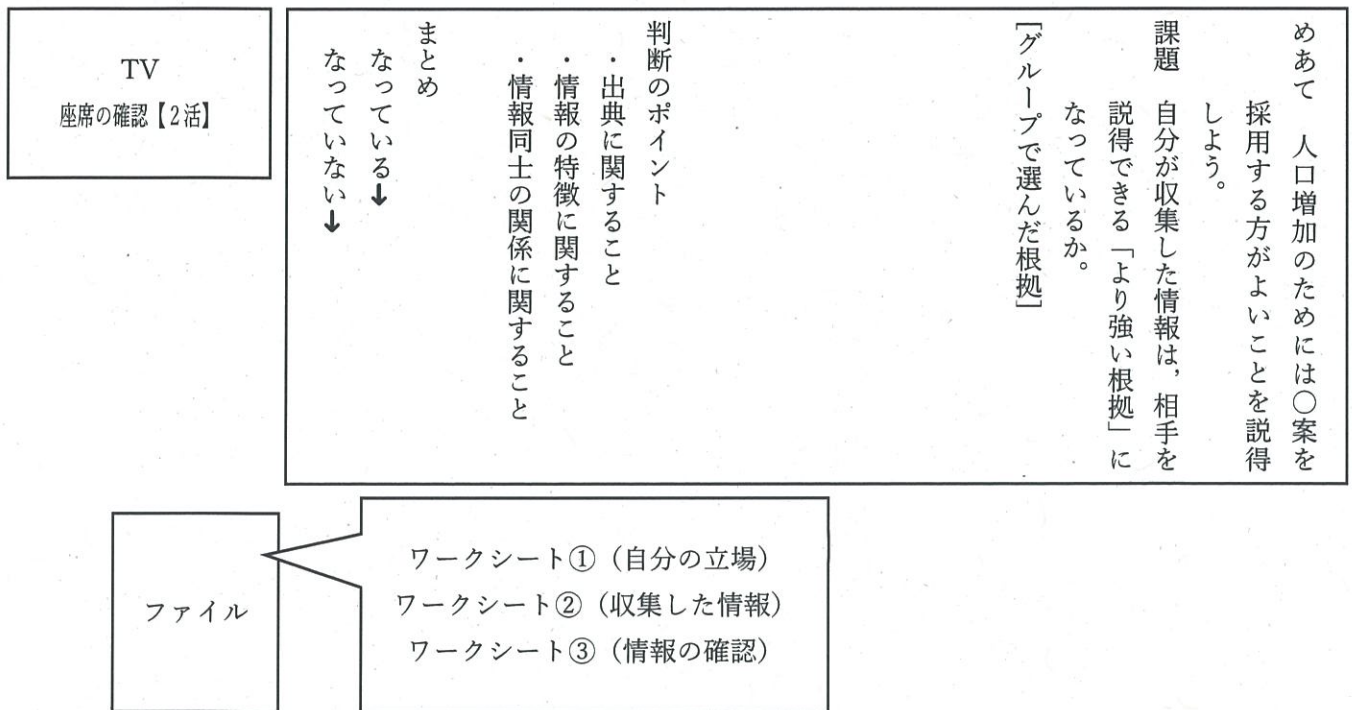
時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
3	1. 単元のめあてと本時の学習内容を確認する。	〇単元のめあてと本時の学習内容を確認する。 単元のめあて 人口増加のためには〇案を採用する方がよいことを説得しよう。 〇説得するためには、「より強い根拠」が必要であることを確認し、本時は自分の収集した情報が「より強い根拠」になっているかを吟味する時間であることを確認する。 課題 自分が収集した情報は、相手を説得できる「より強い根拠」になっているのか。	
12	2. 同じ立場のグループで、収集した情報を比較し、より強い根拠となると考えるもの一つを決め、全体で交流する。	〇同じ立場の人同士で収集した情報を比較させる。 〇相手を説得できるより強い根拠をなすもの一つとその理由をホワイトボードに書かせる。 〇異なる立場から見て、より強い根拠といえるか考えさせる。 [気づかせたいこと] ・出典の確認(発信元、発信時期など) ・情報の特徴に関すること アンケートや調査データ…主体、目的、対象者 事例…今回のH市と重ねることが可能か(市の規模) ・情報同士の関係に関すること そのデータや事例だけで根拠にできるか(複数のデータの必要性)	
12	3. 異なる立場から見て、相手の根拠は納得できるものになっているか考え、交流する。		
15	4. 自分の収集した情報は相手を説得できるより強い根拠になるか考える。	〇自分の収集した情報について、相手を説得するという目的を達成できるより強い根拠になっているか確認させる。 〇その際、なぜ、そのように判断したのか考えさせる。	集めた材料(情報)の客観性や信頼性を確認することができる。(書くこと一ア)
		まとめく予想される考え) 【なっている】 ・発信元が、国の機関であり、調査した時期も2023年と近年のものを使用している。 ・根拠①のデータと根拠②のデータを関連させることで、ファミリーより単身者の方が転居しやすく、また移住に対して前向きな人が多いことを示すことができている。 【なっていない】 ・発信元が個人のブログであり、第1次情報に触れられていない。 ・成功事例を一つしか挙げておらず、必ず成功するという確実性の証明にはなっていない。	
5	5. 考えを交流する。	〇数名を指名する。	

3	6. 振り返りをする。	○次の授業は、情報収集を行い、説得するために自分の伝えたいことを明確にする時間であることを伝え、自分の課題を考えさせる。	
	振り返り	収集した情報がより強い根拠となる情報だったか確認できたか。 次回の授業での自身の課題は何か。	

(5) 本時の評価基準

B	A
個々の情報について、出典に関することや情報の特徴に着目して客観性や信頼性を確認している。	Bに加え、情報同士の関係に着目して客観性や信頼性を確認している。

(6) 学習記録計画



(2)「思考・判断」を促し、明確にできるワークシートの工夫

根拠③ レター 地元（レターをみる） 就職を希望する学生 は62.6%で2年連続増加 → 子どもが大きくなり、 地元ではたらく人がふえ、 人口増加にも。 情報源	根拠① 引越しを思い出さなかった 結婚してから 24.7% 更新時期がきたから 16.1% 一子落しをしたから 13.8% 今よりよい条件の物件をみつけたから 12.0% → 結婚をしたかぶりで考えると、 人の割合が最も大きい 情報源
根拠④ 情報源	根拠② 人口増加市町村 人口増加市町村では、 20歳代から40歳代が44%、 出生率が高くついている。 → 子育て支援のとり組みがすす められたことにより、若い子育 て世代の人口構成世代が 高まり、出生率が高まっている。 情報源 内閣府 オペレーション

主張
私は、【A】案を推薦する。

自分の考えの根拠となる情報を探そう。

ワークシート②
情報収集1で使用



ワークシート③
情報の客観性・信頼性の
確認で使用

あらためて自分の根拠を見直すと、より強い根拠がわかってきた。調べたことはいまひとつだった。

① 引越しを思い出さなかった。結婚してから24.7%、更新時期がきたから16.1%、一子落しをしたから13.8%、今よりよい条件の物件をみつけたから12.0%。結婚をしたかぶりで考えると、人の割合が最も大きい。

② 実際に数値がわいて、強い根拠とは言いえない。↓たしかに情報源のなかから、

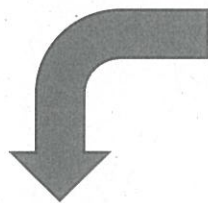
③ 地元就職を希望する学生は62.6%、20歳代から40歳代は44%、出生率が高くついている。→子育て支援のとり組みがすすめられたことにより、若い子育て世代の人口構成世代が高まり、出生率が高まっている。

根拠①	△
根拠②	△
根拠③	×
根拠④	△

【収集した情報について】

情報元
、公的機関
、新しい
情報の特徴
、誰が何のため、回答数
情報の関係

収集した情報は読み手を説得できる、より強い根拠になっている。



根拠 人口増加市町村 20歳から40歳の人口構成 が高く、出生率が高くな っている。 人口増加市町村は、 情報源 内閣府ホームページ	北海道土佐町 2016～2019 →3年連続人口増加 ふるさと納税で 子育て・教育支援 情報源 総務省
地元在住 単身 43.4% 2人1世 2.7% 無回答 0.4% 情報源 総務省 2018年	転居マイニング 結婚 16.2% →1番大きい 情報源 総務省

主張
私は、【A】案を推薦する。

より強い根拠を求め、伝えたいことを明確にしよう。

ワークシート④
情報収集2で使用
(対話型論証モデルの一部)

この3枚を並べると、ワークシート③を経たことで、根拠とした情報に変化があったことがわかる。これを1枚、ないし2枚のワークシートにまとめられるとよかった。

(3)「思考・判断・表現」の質に着目した評価基準の設定

自分の根拠と他の人の根拠を比べて、根拠として、かりしているが、
弱いが明確にあらた。次は△の根拠をあおせて使つ根拠を平べた
に表して、いふといふ。

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

- の使えられか A 案にヨリ、トにあふ水については關係がないので
了きて世代の戸口をいふ根拠とあわせてつかうといふ根拠に
なると思へう。
- ② 一 位ギマは抽象的で概然として弱いといふべきであらう。
- ③ 移住者の家族形態を示すことで二人以上の世帯に就て論議をもち
つてを示せるが、いふやうな

情報の合れ七投をして正確な根拠にできていたと思うが本来の目的である
H市の人口増加に貢献するのから更に確實にするために移動する要因に
調へていくた。

「B案が本当に

根拠①について△にしたのは、都道府県間移動者数が多いのは二十代だという事実がよいが、進学や就職などの移動の要因は不明→明確にし、H市にも移住し得るのかどうかを確かめらるる根拠にしたい。根拠②については、①との合わせ技をするために、正確な情報源と時期の情報がある点が良いか、とも思う。

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

迷つてゐるに誤得するのために、具體的の數値とばかりに氣をとつてた
然るゝ以前に情報の信用性がない出典で、不確かだったので、より信用できま
は納は機關から情報を得ることにした。

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

- ① 出典の信頼性あり
- ② 出典の信頼性低い
- ③ 厚は常観省によるデータなので信用性はあまり
平成元年(1990)のデータから少し古い
- ④ ただし信用できる出典だった気がする

主無があきりほ、きりしないのぢやなくて、自分の根柢にあまり、自信が持てなかつたので、次回は内閣府とあのほきりとしたテーマをも調査したい。

主典がはきりしてなりから、
目と律約ではない、
なごりしは、
根拠がふない

根拠①	
根拠②	
根拠③	
根拠④	

情報ごとの確認と情報と情報の関係で確認するという基準については、明確な判断基準として使用でき、煩雑さも感じなかった。ここを扱うときには、「知技」の「情報」の部分との関連をより綿密に考えておきたい。

単元プランシート(国語科 1 年)

実施時期 6月下旬

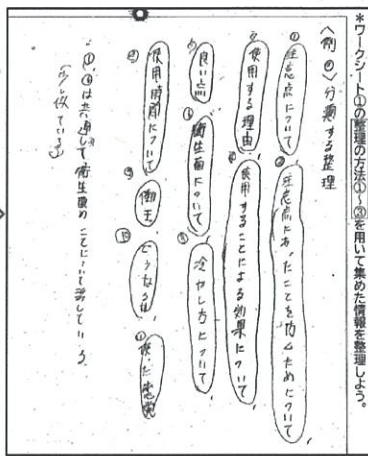
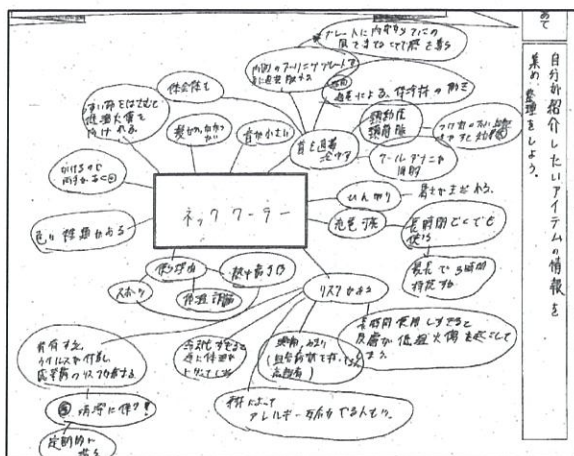
単元名	私が使っている夏に役立つ必須アイテムを紹介しよう！ 【紹介文を書く】自分が伝えたい情報を整理して紹介しよう。	
単元の目標	情報を比較・分類などさまざまな方法で整理することを通して、伝える目的や相手、内容に応じて分かりやすく伝える紹介文を書くことができる。	
評価 規 準	知・技	①比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うことができる。 (情報の扱い方に関する事項(2)イ)
	思・判・表	①目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(書くこと(1)ア) ②情報の整理と内容の明確さなどについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の良い点や改善点を見いだすことができる(書くこと(1)オ)
	主体	①集めた材料を粘り強く整理し、他教科を含めた今後の学習に活かそうとしている。 ②目的や相手を意識し、伝えたいことを明確にした紹介文を書こうとしている。 ③他者からのアドバイスをもとに自分の文章を見直し改善しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	「分類」「比較」など観点ごとに情報を整理する方法を学ぶ。 ⇒情報の種類によって整理する方法が異なることを学ぶ。	① ワークシート①		
2次 (2～3時)	テーマに沿って情報を整理し、紹介文の構成を考え他者と助言し合う。 ⇒自分が紹介するものをマッピングに書き出し、そこから紹介文に使用する情報を整理する。 ⇒整理した情報をもとにどのように説明したら分かりやすいかを考えながら紹介文を構成し、助言し合う。		①(2・3時) ワークシート② ワークシート③	
3次 (4～6時)	他者からの助言を踏まえて構成を練り直すと共に、紹介文の清書を行う。また、交流を行う。 ⇒整理した情報や他者からの助言をもとに分かりやすい紹介文を書く。 ⇒他者が書いた紹介文を交流し、自分の紹介文と比べてみる。		②(4時) ワークシート④ 清書用紙	②③(4時) 清書用紙
4次 (7時)	ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			① 振り返りシート

評価基準	
B	A
紹介するアイテムの情報を、観点にそって比較か分類のどちらかの方法で整理することができる。	紹介するアイテムの情報を、観点にそって比較・分類の両方の方法で整理することができる。
整理した情報をもとに、自分の考えた構成から他者の助言を反映させた上で相手や目的を意識しながら、自分の構成を書き加え、紹介文を書いている。	B評価に加え、自分がオススメしたい物の情報を明確にしながら、構成を書き加え、紹介文を書いている。

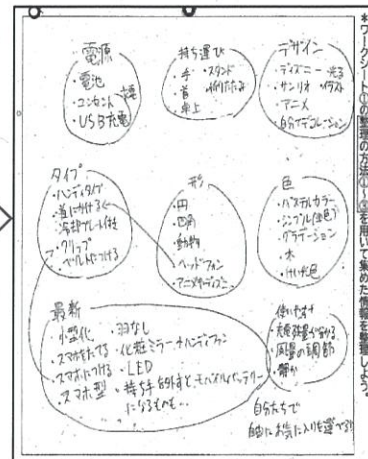
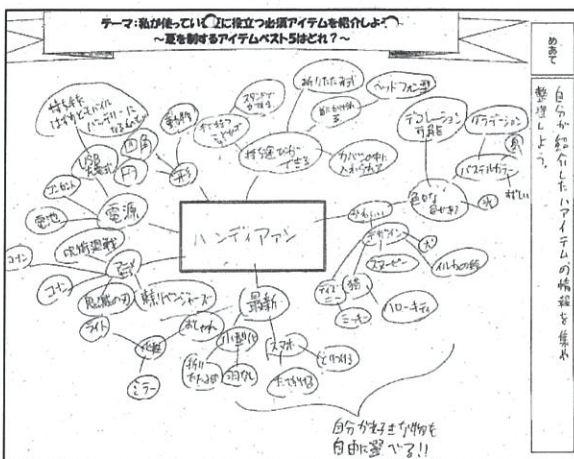
ワークシート②「情報の整理」に関する評価

前時に学習した情報の整理の仕方を活かして、自分が集めた情報を整理する学習



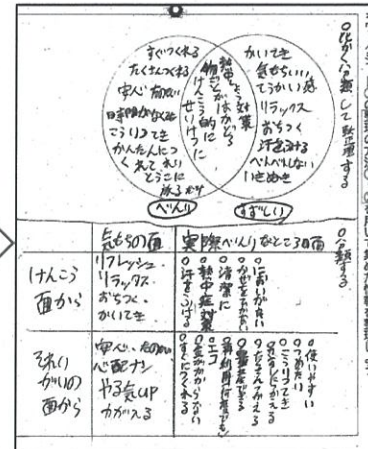
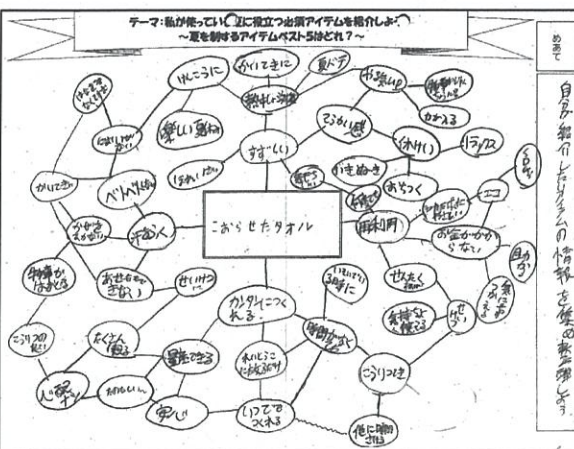
【C評価】

集めた情報を分類・比較のどちらかの方法で整理することができておらず、書き連ねただけになっているため。



【B評価】

集めた情報を分類の方法で整理することができている。



【A評価】

集めた情報を比較・分類の両方で整理することができている。

【分析】

- ・C評価・・・各クラス2～3名程度。A評価・・・各クラス5～6名程度。
- ・情報の収集に関しては、今回の単元は「身近な題材」（夏にオススメのアイテム（物・食べ物・場所など）を紹介する）というテーマで授業を行ったため、マッピングの方法で多くの情報を集めることに重きをおいた。多くの学習者がPCを用いて情報収集を行うことができた。
- ・B評価の学習者のワークシートを見ると、多くの学習者が「分類」の方法をとっていた。分類をする際に、どの項目で分けるのかという部分に難しさを抱えている学習者が多いように感じた。
- ・今回の題材のテーマでは、情報を「比較」し整理するという方法が難しかったように感じる。他の物との比較にまで学習者の思考をもっていくことができなかったことが課題である。

ワークシート③④「整理した情報をもとに構成を考える」に関する評価

※ワークシート④を中心に評価する。

整理した情報をもとにして紹介文の構成を考えると共に、他者の構成を助言する。またその助言を踏まえて自分の構成を書き直す学習

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【C評価】

他者からの助言を反映させることができておらず、会い当て意識のない構成になっている。

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【B評価】

他者の助言を反映させた上で、「番匠川」の説明を増やすなど相手を意識した構成に書き換えている。

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

テーマ：私が使っているに役立つ必須アイテムを紹介しよう
～夏を制するアイテムベスト5はどれ？～

① 必須アイテムの紹介
② 場所紹介（大分県から何処か）
③ 施設紹介（アスレチック）
④ プール（お天気に合わせて）
⑤ お食事（お天気に合わせて）
⑥ 食事について
⑦ シンパルの紹介（アスレチック）
⑧ バッテリーについて（アスレチック）
⑨ お天気に合わせて

※他者の構成を参考にしよう

※自分の構成を考えよう

【A評価】

他者の助言を反映させたことで、クラスメイト全員に対する紹介文という相手意識が加わった。また、書く内容も絞られ明確になっている。

【分析】

- ・C評価…各クラス2～3名程度。A評価…各クラス10名程度。
- ・他者からの助言を踏まえて、相手意識が生まれ構成を考える時に反映させることができた学習者がほとんどであった。
- ・情報の多さや、どこのPRポイントとして構成を考えるのかという視点に立たせることができていなかった。整理した情報を多く使うことが中心になり、「なぜそれを紹介するのか」という部分への意識が不足した構成が多かったように感じる。

清書用紙「構成をもとにして紹介文を書くこと」に関する評価

構成を踏まえて、紹介文を清書する学習

ホテルです。ぜひ、行ってみたい。	今回紹介した杉乃井ホテルは、とても新しい。	もありです。	に、とても異なります。スライダは全四種類	ト、スライダキーボードは全四種類	また、私がよくオススルのは、アビ	交代に入ると、とても気持ちい	あります。その、この温度差は三十度あり	最後に、棚湯は温泉で、水風呂やサウナが	敷が全部で三三六室と、とても多いです。	次に、宙館はホテルで、4階建ての、部屋	の、この部屋で一位です。	です。この部屋で一位です。	アビ、棚湯、宙館です。	今回紹介する施設は、シーダパルスとア	ります。このホテルは、とても安く泊まれます。	約4分、入分県別府市観海寺のところにあ	です。杉乃井ホテルは、附属中学校から車で	私の夏に必須のアイテムは、杉乃井ホテル
------------------	-----------------------	--------	----------------------	------------------	------------------	----------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------	---------------	-------------	--------------------	------------------------	---------------------	----------------------	---------------------

【C 評価】

自分がオススめをしたい内容と、整理した情報が合致していない。目的意識が不足している。

ます。	にと、夏にしか食べないアイスになると、心配	ルムを食べてみてはどうでしょう。かき氷	す。夏に食べるアイスには、かき氷が最適	このように、パルムには、様々な味があ	入れている様々な味の展開をしています。	季節限定の、パルムもありません。特に夏に	また、より多くの人に食べてもらえよう	用し、約千本もの試作をしてきました。	五年に販売して、います。夏の暑い乳原料を使	パルムは、二〇〇三年に開発開始し、二〇〇	年、れい原からの人気を、はいています。	絶賛の、わりには、満足感があふれています。	カ、この半分ほどです。	味と見た目が特徴です。内容量は、お米の粒	ます。パルムは、口溶けがよく、高級感のあ	イチオシのアイス、パルムを、紹介します。	た、アイスが最高です。おねと、この味	い、これは夏です。夏は、この味
-----	-----------------------	---------------------	---------------------	--------------------	---------------------	----------------------	--------------------	--------------------	-----------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	-------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------	-----------------

【B 評価】

なぜ夏にオススめしたいのかということと、整理した情報が合致している。他の商品との比較などが加わると紹介したい内容が明確になるので、A 評価になるがその部分が不足。

夏にオススメしたい理由と整理した情報が合致している。また、他のものと比較することもできおり、紹介したいことがより明確になっている。

僕はこの夏祭りに行くことをオススメします。特に「ぶ火の海まつり」に行くと、ほしいと思います。まず、夏祭りといふ、たら花火やみこしで、色鮮やかな花火を約千発打上げます。特に夏祭りがよくきれいに見えるため、景色は絶景です。さらに、お面や浴衣を着れば、と雰囲気が出て楽しめます。お金を持っていく遊人は、屋台で食べ物を買ったり、射的をして遊んだりもできます。祭りは基本的に友達などの複数人で動くと思いますが。先ほど言ったくさんのイベントを一緒に楽しめば、新しい友達ができたり。さらに仲が良くなるはずです。僕たちのように一年生でまだ話したことのない人がいる人こそ夏祭りに行って、夏休み全体が楽しくなるようにしてください。このことから僕は、この夏祭りに行くことをオススメします。

・一方で整理した情報が自分の述べたいことを支える根拠としてふさわしいものになっているのかという部分に関しては不十分さを感じるものもあった。なぜこの情報を使用したのか、自分のどの主張を支えるために使用したものなのかという部分に課題が残ったと考える。

国語科学習指導案

令和6年9月20日(金)第5校時

1年B組 36名

指導者 門脇 舞

- 1 単元名 「パリ2024オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を大調査」
【レポートを書く】根拠を明確にして自分の伝えたいことを書こう

2 単元設定の理由

(1) 教材について

- ・言語活動は、「パリ2024オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を調査し『レポート』にまとめる」と設定する。第1学年では書くことにおいて、「根拠を明確にすること」が求められる。本活動も、根拠となる複数のデータや調査結果を分析し、それを引用することで自分の考えを支え説得力を高めるものになるのかを思考するものとなっている。
- ・題材は、「オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心度のデータ」を用いるものである。オリンピックはこの夏に行われた国際的なスポーツの祭典であるため、新しいデータも多く関心度も高いことから、生徒がレポートを作成する上で、考察を支えるデータも多いと考えられる。
- ・この単元では、根拠を明確にするためのデータの引用の仕方や出典の方法、さまざまな種類のデータを多角的に読み取る力を育成することも求められている。多くの企業がさまざまな観点から調査を行っているデータを活用することで、求められる力をより効果的に育成できる。

(2) 学習者について

- ・6月には、夏に役立つ必須アイテムを紹介するという「書くこと」の授業を行っている。そこでは、マッピングを用いて情報を集め、その情報を分かりやすく整理する方法を学習した。学習者の授業後の振り返りでも「情報をまとめることは他の授業でも活用でき、書くだけでなく話す時にも活用できると考えた」「同じアイテムを選んでいる理由となる情報が違っていたことに驚いた」などが書かれており、「情報をまとめること」や「その情報を活かして文章を書くこと」には手ごたえを感じているようであった。一方で、「選んだ情報」が自分の考えを支えるものになっているかという部分に関しては、「夏にオススメ」する根拠となる情報を選べていないことや、情報ばかり述べ、自分の考えと根拠の情報が正確につながっていない紹介文が見られた。
- ・夏休み前に、「中学生に人気の高いもの・関心が高いもの」「この夏に楽しみにしていること・関心があるもの」というアンケートを取った結果、「アニメ・漫画」「TikTok」「YouTube」などはもちろんだが、4年に一度開催される「パリ 2024 オリンピック・パラリンピック」への関心も高いことが分かった。学習者自身が関心をもち、また直近で行われた国際的なスポーツの祭典であるため、親しみやすく、書くことに対して苦手意識を持っている学習者にとっても意欲喚起に繋がると考える。
- ・学習者にとって ICT 機器は身近なものであり、情報を調べることに對しては慣れている一方で、調べたことを分析する力が弱い。情報の数値を読み取る力や情報と情報を比較することに慣れていないという課題があげられる。

(3) 指導について

- ・今回の単元では、「自分の考え」とそれを支える「根拠」を合致させることが大きな目標である。そのためには、根拠(資料やデータ)をもとに「そのデータからどのような事実を読み取り、そこからどんな解釈をしたのか」を明確にする必要がある。そのため、学習者の思考の過程が見えるようなワークシートを作成し、指導していき、最後のレポート作成に繋げていく。
- ・仮説を立てるにあたって、全体で一つのグラフを読み取る活動を行う。年代ごとの「パリ2024オリンピック・パラリンピック」に対する興味関心度を示すグラフから、若年層に着目させる。学習者自身も関心度が高い「パリ2024オリンピック・パラリンピック」であるが、世論がどう捉えているのかをグラフから読み取った上で仮説を立て、「調査」「考察」へと繋げていく。学習者がもっている興味関心度をより一層引き出すために、最初に提示するグラフを、多くの仮説が導き出せるようなものになるように工夫する。また、課題を設定する上で「パリオリンピック・パラリンピックと〇〇」と視点を絞らせ調査分析させることで、学習者一人ひとりがより具体的な課題設定や仮説を立てられるようにする。
- ・学習者自身が調査する「情報の質」に対しても細かく指導していく。自分の仮説を証明するための「根拠」を多くの情報の中から取捨選択し、自分の「考察」へと繋げていく中で、情報と情報との関連がとても重要になる。複数の根拠を抜き出しても、一つひとつの情報の関連が薄ければ「考察」を支える根拠として弱くなる。そのためただ単に情報を集めるのではなく、情報と情報との関係を考え、「考察」を述べる上での「根拠」として適切なかどうかの指導を行っていく。

様式2 単元プランシート

単元名	「パリ 2024 オリンピック・パラリンピックの若年層の興味関心度を大調査」 【レポートを書く】根拠を明確にして自分の伝えたいことを書こう！	
単元の目標	確かな根拠を示し考えまでが一貫した説得力のあるレポートを、各自が仮説を立て考察を導き出す学習を通して書くことができる。	
評価 規 準	知・技	①情報を関連付ける整理の仕方、引用の仕方、出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(情報の扱い方に関する事項(2)イ)
	思・判・表	①目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(書くこと(1)ア) ②自分の考えを裏づける資料やデータを選び根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫している。(書くこと(1)ウ)
	主体	①集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしようとしている。 ②文章の構成や展開の仕方を粘り強く考え、レポートを作成しようとしている。 ③レポートの作成を通して、本単元で学んだことを言語化している。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	・「オリンピックに関する資料」を読み解き、オリンピックへの関心を高め学習の見通しをもつ。 ・自分の課題を設定し、仮説を立てる。			②(1時)観察
2次 (2・3時)	・自分の仮説を考察するための情報を整理し分析する。 ・根拠(資料やデータ)と自分の考え(考察)をまとめる。 ⇒資料やデータを取捨選択し、自分の根拠が明確になるようにする。	①(2・3時) ワークシート	①(2・3時) ワークシート	①(2・3時) ワークシート
3次 (4～6時)	・根拠(資料やデータ)と自分の考え(考察)に一貫性のあるものにするためには、どのように資料やデータを取捨選択する必要があるのか考える。【本時】 ⇒例題を用いて根拠を元にした考察とはどのようなものなのか考え、自分の考察を見直す。 ・レポートの推敲。 ⇒前時を振り返り情報の精査及び考察を推敲した上で、交流を通して自分の考えを完成させる。 ・レポートを清書する。(PCを使用する)		①(4時) ワークシート	①(4時) ワークシート
			①(5時) ワークシート	①(5時) ワークシート
		①(6時) レポート用紙	②(6時) レポート用紙	②(6時) レポート用紙
4次 (7時)	・レポートを交流する。 ・ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			③ 振り返りシート

	評価基準(思考・判断・表現について)	
	B	A
①	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができ、その根拠と考察に一貫性がある。	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができ、根拠と根拠を関連づけた上で考察と一貫性をもたせている。
②	資料やデータを引用することで、考察が説得力のあるレポートになっている。	資料やデータを引用することで、課題から考察が一貫した説得力のあるレポートになっている。

様式3 本時の指導

(1) 本時の位置づけ(4/7)

(2) 題材「調査の結果(資料やデータ)」と「考察」の関係について考えよう。

(3) 本時のねらい

資料やデータと自分の考えに一貫性のある考察にするために、考察を裏づける資料やデータを取捨選択することを、例題で示されたレポートから客観的な事実(資料やデータ)と自分の考え(考察)の関係について考える活動を通して、自分自身のレポートに活かすことができる。

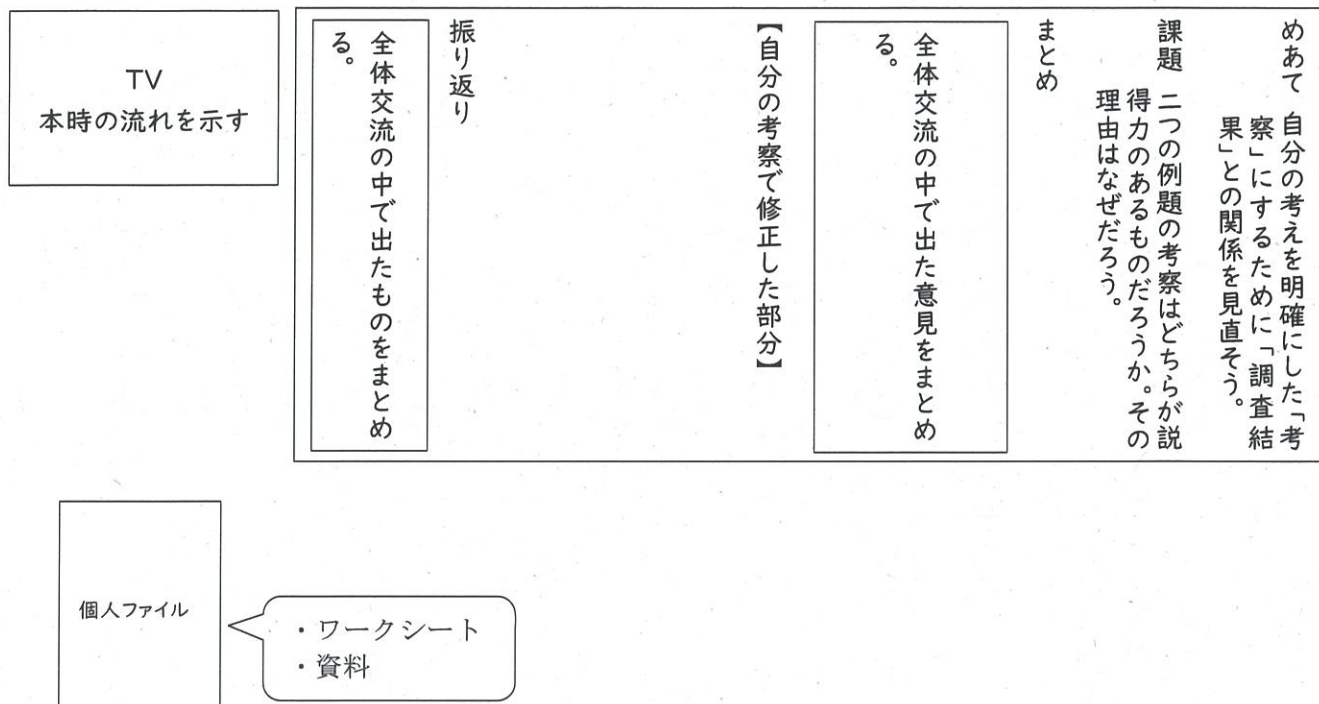
(4) 展開

時間	学習活動	学習内容及び指導上の留意点	評価
5分	1. 前時の振り返りと本時のめあて及び学習内容を確認する。	○本時のめあてと学習内容を確認する。	
	【めあて】自分の考えを明確にした「考察」にするために「調査結果」との関係を見直そう。		
		○自分の考えを明確にした「考察」にするためにはどの項目との関連が必要か考えさせる。	
	【課題】二つの例題の考察はどちらが説得力のあるものだろうか。その理由はなぜだろうか。		
10分	2. 二つの例題の「考察」のどちらが説得力のあるものか考える。【個人】	○自分が選んだ例題の「考察」のどの部分が説得力のあるものと感じたのか、その理由は何なのかを個人で考えさせる。 →周りとの交流などを通して中間指導を入れる。	
15分	3. 班で交流したあと全体で交流する。	[まとめ] (気づかせたいこと) ・調査結果をもとにして考察を書いている。 ・調査結果を比較したり、結び付けたりする中で書いている。 ・一つの調査結果からそれを詳しくするための調査結果を使い、考察に結び付けている。 ・考察の中では、調査結果の大切な部分だけをまとめて述べている。	
15分	4. 自分の前時のプリントを見返し修正する。その後、班で交流する。 →全体で数名指名し交流する。	○前時で学習した、「調査結果」と「考察」の部分をもう一度見直し、修正の方向性を考える。 ○なぜその部分を修正した方がいいのかの理由も考える。	自分の考えを裏づける資料やデータを選び根拠が明確になるように修正する方向性を考えることができる。 (書くことーア)
5分	5. 振り返りを書く。	○考察が説得力のあるものになるためには何が必要なのか考える。	
	[振り返りに書く内容] *1時間の授業を通して自分が学んだことは何か。 *この1時間の授業を通して、何を学んだのか。 について書かせる。		

(5) 本時の評価基準

評価基準(思考・判断・表現について)	
B	A
自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができており、その根拠と考察に一貫性がある。	自分の考え(考察)が明確になる根拠(資料やデータ)を抜き出すことができており、根拠と根拠を関連づけた上で考察と一貫性をもたせている。

(6) 学習記録計画



ワークシート④

「情報を集めよう・情報を読み取ろう・情報を引用する」

「根拠を示して説明しよう・資料を引用してレポートを書く」

一年()組()番(名前)

)

めあて	自分の考えを明確にした「考察」にするために「調査結果」と「考察」の関係を見直そう。
課題	二つの例題の考察はどちらが説得力のあるものだろうか。その理由はなぜだろうか。
説得力があるのは A B	
○そう考えた理由【個人】	○班活動・全体交流の中で、発見した新たな考え

振り返り 説得力のある考察を書くためには何が必要か。

【前時のついでに】「前時のついでにから【調査結果・読み取ったこと・自分の考え】を付け足す」
 とを書いた。

○ ①	②	③
--	--	--

*あなたが行った【調査結果・調査結果から分かること・仮説に対する考察】の評価は……

○

○……そのままレポートに使える

△……多少の情報の調べ直しや考察の推敲が必要

×……情報の調べ直しや考察の考え直しが必要

課題 インターネットを使ってSNSを利用する人が多く、中学生はどのような目的でSNSを活用しているのか疑問に思っている人々を調査した。

仮説 SNSを利用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためではないだろう。

ワークシート④
「情報を集めよう。情報を読み取る。情報を引用する」
「根拠を示して説明しよう。資料を引用してレポートを書く」
一年（組）（番）（名前）

めあて

①中学生が利用しているSNS

- ① LINE 83%
- ② YouTube 89.2%
- ③ Twitter 24.1%
- ④ Instagram 35.2%
- ⑤ Facebook 1.0%
- ⑥ TikTok 46.0%

調査結果（根拠となる資料データ）

①中学生が利用しているSNS

YouTube、LINEが80%を超えている。また、TikTokも約半数で利用していることが分かった。この3つの活用方法は、動画視聴、動画投稿、他者とのリアルタイムのやりとりである。

調査結果から分かること

②SNSを通じて友人とつながることに興味がある人は多い。

一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も30%ほどいることが分かった。

③

① LINEの活用については、家に帰るころから友達とつながるという目的で利用していることが分かった。また、友達とのコミュニケーションの場としてSNSを活用しているという意見も多かった。一方、YouTubeやTikTokの動画視聴、動画投稿については、友達とのコミュニケーションの場として活用しているという意見も多かった。

仮説に対する考察

② SNSを通じて友人とつながることに興味がある人は多い。

利用する目的が友達とのコミュニケーションであることが分かった。

③

考察

中学生がよく使用しているSNSは、LINE、YouTube、TikTokであることが分かった。その中でもLINEは、友達とつながるという目的で利用していることが分かった。また、友達とのコミュニケーションの場としてSNSを活用しているという意見も多かった。一方、YouTubeやTikTokの動画視聴、動画投稿については、友達とのコミュニケーションの場として活用しているという意見も多かった。

A

課題 インターネットを使ってSNSを利用する人が多く、中学生はどのような目的でSNSを活用しているのか疑問に思っている人々を調査した。

仮説 SNSを利用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためではないだろう。

めあて

ワークシート④
「情報を集めよう。情報を読み取る。情報を引用する」
「根拠を示して説明しよう。資料を引用してレポートを書く」
一年（組）（番）（名前）

①何のために利用しているか

- ① 見たい動画、情報を知りたい 74.5%
- ② リアルな友人との交流 52.7%
- ③ 家族との連絡 33.7%
- ④ SNS上の友人との交流 18.3%
- ⑤ 情報の発信 16.9%

調査結果（根拠となる資料データ）

①SNSの活用目的は「見たい動画、情報を知りたい」という目的が最も多い。

また、SNS上の友人との交流という目的も30%ほどいることが分かった。

調査結果から分かること

② SNS上の友人とつながることに興味がある人は多い。

ネット上で知り合った友達と、リアルで会って遊ぶという目的でSNSを活用している人が30%ほどいることが分かった。

③ SNSを通じて友人とつながることに興味がある人は多い。

一方、プライバシーの問題やトラブルの心配をしている人も30%ほどいることが分かった。

① SNSの活用目的は「見たい動画、情報を知りたい」という目的が最も多い。

また、SNS上の友人との交流という目的も30%ほどいることが分かった。

仮説に対する考察

② SNSを通じて友人とつながることに興味がある人は多い。

利用する目的が友達とのコミュニケーションであることが分かった。

③ SNSを通じて友人とつながることに興味がある人は多い。

利用する目的が友達とのコミュニケーションであることが分かった。

考察

SNSを使用する多くの中学生の目的は友達とのコミュニケーションのためであることが分かった。また、友達とのコミュニケーションの場としてSNSを活用しているという意見も多かった。一方、YouTubeやTikTokの動画視聴、動画投稿については、友達とのコミュニケーションの場として活用しているという意見も多かった。

B

単元プランシート(国語科 1 年)

実施時期 1 月中頃

単元名		構成や表現の工夫を用いて随筆を書こう!
単元の目標		段落の役割を意識し、根拠や自分の思いを明確にする語彙・表現技法を活用することを通して、自分の体験やその時の思いが分かりやすく伝えられる随筆を書くことができる。
評価 規 準	知・技	①事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、五感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ((1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ)
	思・判・表	①書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(書くこと(1)イ) ②根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。(書くこと(1)オ)
	主体	①さまざまな語彙や表現を知ること、今後の学習や生活に活かそうとしている。 ②目的や相手を意識し、伝えたいことを明確にした随筆を書こうとしている。 ③他者からのアドバイスをもとに自分の文章を見直し改善しようとしている。

	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1次 (1時)	「随筆」とはどういうものかを確認すると共に、「表現技法」の学習を行う。 ⇒小学校の時に書いた随筆より構成や語彙を工夫した随筆を創作することを意識づける。	① ワークシート①		
2次 (2~3時)	教科書に載っている「随筆二編」を扱う中でよりよい随筆とは何かを学習する。 ⇒二つの随筆からどちらかを選び、分析する。その中で、書き出しの工夫や、使われている表現技法、工夫された語彙などを見つけ、自分が随筆を書くときの参考にさせる。	① ワークシート③		
3次 (4~7時)	随筆の構成を考え、交流する。 ⇒「事実」と「意味づけ」のバランスや書き出しの工夫、表現技法や語彙の工夫を用いながら考える。 ⇒他者と構成を交流しアドバイスをもらう中で、構成を推敲し直す。 随筆を PC で作成し、交流する。 ⇒ワークシートを用いて、随筆を PC で作成する。 ⇒観点を踏まえて、完成した随筆の作品を交流する。	①(6時) 随筆清書	①(4・5・6時) ワークシート④ ワークシート⑤ 随筆清書 ②(5・7時) ワークシート④ ワークシート⑤ 随筆清書	②(6時) 随筆清書 ③(5時) ワークシート④ ワークシート⑤
4次 (8時)	ワークシートを用いて、単元の振り返りを行う。			① 振り返りシート

評価基準	
B	A
「事実」と「意味づけ」のバランスを考え、伝えたいことを明確にし、語彙の工夫や表現技法を使い、随筆の構成や書き出しを考えることができる。	「事実」と「意味づけ」のバランスを考え、伝えたいことを明確にし、語彙の工夫や表現技法も効果的に使い、随筆の構成や書き出しを考えることができる。
「事実」と「意味づけ」のバランスや語彙の工夫、表現技法の使い方について他者の助言を踏まえた上で、自分自身の構成や書き出しを見直し、随筆を書くことができる。	B の評価に加えて、読み手が引き込まれるような内容になっている。(読み手が心情や情景を想像できるような語彙や表現技法を用いることができる)

ワークシート④⑤ 随筆の構成に関する評価

これまでに学習したことを生かして、随筆の内容の「構成」と「書き出しを書く活動。⇒助言をする活動も合わせて行った。

[illegible]

【C 評価】

段落構成では、「事実」と「意味づけ」のバランスがよくない。「意味づけ」の内容もウ読み手に想像させる語彙を使うことができておらず、表現技法の活用も不十分である。また、他者からの助言を踏まえて見直しを行うことができていない。

[illegible]

【B 評価】

段落構成をしっかりと行い、「事実」と「意味づけ」もバランスよく書くことができている。また、書き出しも他者からの助言も踏まえてよりよいものに行っている。一方、読み手が想像できる語彙を効果的に活用する点については不十分。

[illegible]

【A 評価】

段落構成をしっかりと行い、「事実」と「意味づけ」もバランスよく書くことができている。また、書き出しも表現技法を効果的に活用し、読み手が続きを読みたくるように工夫している。自分の心情を読み手が想像できる語彙を選ぶことができて

【分析】

- ・C評価・・・クラスに1～2名程度。A評価・・・各クラス5～6名程度。
- ・これまでの学習も活かし、構成を考える活動をスムーズに行うことができた学習者が多かった。
- ・「事実」と「意味づけ」のバランスも工夫し、説明文ではなく随筆として構成を考えている姿が見られた。
- ・表現技法や自分の内容に合った語彙を選ぶことに関しては課題が残る。自分の心情やその時の様子に合った語彙を活用するためには、語彙力を増やすということが必要である。

随筆清書「他者からの助言を踏まえて構成や書き出しを見直し随筆を書けている」に関する評価

他者からの助言をもとに、構成や書き出しを見直し、自分の考えが明確に伝わるような随筆を完成させる活動。今回の*創作活動は量を書きたい学習者も多かったことから手書きではなくPCを活用した。

「のつはる合宿」

ぼくたちは揺れるバスの中、旅行だ！ワクワク、ドキドキするなあというような気持ちで学校入学以降初めての行事とも言えるのつはる合宿に行こうとしていた。いまではのつはるは旅行よりも集団意識が芽生えるためのスタートだったんだと思う。

のつはるにつくと、入所式があり、その後、野鳥ビンゴという外での活動を班で行った。最初はみんな楽しく歩いていて、いつのまにか迷路のようになっていって道がわからなくなり、地図上にはない道を歩いていることがわかった。みんなでこの道を行こうとすると話し合えばよかったのだが、半分ほどを班長に任せきりにしてしまっていたのだ。なんとか展望台につき、正規ルートに戻ることができたのだが、自分からもっと行動するべきだなと思った。

更にそのあと、部屋に戻ったあと、夕食を食べに食堂に行くときも、班員全員が集まるのが遅れてしまい、他の人に迷惑をかけてしまった。自分から声をかけようとは思っていたが、半分ほどを班長に任せきりにしてしまっていたのだ。なんとか展望台につき、正規ルートに戻ることができたのだが、自分からもっと行動するべきだなと思った。

次の日は快晴だった。一年生全員体育館に集まり、あたまおしりゲームなどの活動をした。みんな意見を出し合うなか、一人がわからなくなっても、こういふのはどう？というように提案などして班一休となって取り組んだ。結果的に多くの単語を出すことができたのだ。その後はクラス全員の誕生日をジェスチャーなどで表現し、誕生日順に輪っかを作るというゲームをした。残念ながら優勝することはできなかったが、協力が大切だなと思った。

今では野津原の頃よりもクラスとして、そして集団としての意識が高まったが、のつはるがクラス、集団として意識した点だったんだなと思う。振り返って思った。

「青垣祭」

1月1日に、青垣祭があった。青垣祭ではクラス合唱があり、私がいる1年B組では「COSMOS」を歌った。

合唱練習は夏休み明けから始まり、小学校に比べると練習期間が長かった。

1ヶ月くらい前になると、休み時間、放課後にも練習があった。中学校では自分の歌いたいパートを決められなく、アルトになってなかなか音程を覚えられなかった私は、面倒くさい、早く帰りたいという気持ちがあった。けれど、同じパートの友達が頑張って音程を覚えて、大きい声をだせるように工夫して練習しているのを見て、私もその友達みたいにもっともっと頑張ろうという気持ちになった。そして、中間発表が過ぎてからは、ここまで頑張ってきただけから、絶対金賞をとりたいという気持ちになっていった。

そして、ついに青垣祭本番...。上手く歌えなかったらどうしようという不安や、緊張があった。けれど、練習を頑張ったから大丈夫と思い、歌い切ることができた。

結果は、金賞をとれなかった。金賞を取ったのは隣のクラス。私は、夏休み明けの練習が始まった瞬間から本気で頑張っていたけれど、と悔しさが残った。しかし、青垣祭を通して、苦しいことでも向き合ったり、本気で取り組むなど、成長することができた。

青垣祭でついに力を日常に活かしたい。

【B 評価】

他者の助言を踏まえて自分の構成を見直し随筆を書くことができた。「事実」と「意味づけ」を混ぜながら書くことができていいる。一方で、読み手に想像させるような「意味づけ」やそれを表すための語彙選びや表現技法の活用に残る。

「1年間のありがとう」

4月の中旬頃、僕の中学校生活がスタート。そのスタートに華を添える出来事があった。「列車通学」これだけでかっこいい！と思ってしまう当時の自分。今でも「列車止まります〜次は中判田〜中判田〜」という運転手の声とともに朝が始まる。

豊肥本線の車窓から見える景色はたくさんの作物が実った田園風景が広がり、乗っただけで心休まるような気がする。汗をかきながら農作業をしているおじさんが列車に手をふったりして都会にはない田舎の在来線っぽくていい！と声を弾ませていた。

さてその車内はというと、サラリーマンや学生などがたくさんのお弁当箱のようになっている。かなり窮屈で約20分耐えなければならぬのでかなりきつい。はじめはこんなきついことも楽しさのほうに勝っていたのでなんとか頑張れたが、こうも続いてしまうとさすがに面倒くさくなってしまった。

7月ぐらいだっただろうか。10分ほど列車が遅れて大分駅に到着。その列車を使って次は久大本線由布院駅行きと接続しているため、二つの便に影響が出てしまった。遅れをだしてしまっただけで豊肥本線の運転手が久大本線の先頭運転手に注意を受ける場面を偶然耳にした。駅構内はガヤガヤしているため詳しくは聞き取れなかったがこれだけにははっきりと聞き取ることができた。「歴史の長い路線。もっと責任感を持ってくれ」1914年創業の豊肥本線。それに対する思いを込めた言葉だったのだろう。

その言葉を聞いた直後、学校へ向かう途中、1914年創業ということは100年を超える歴史があって、これまでに何人もの人が運転に携わってきたのだらうかと考えたときにとても感慨深い気持ちになった。地方鉄道の半分近くが運転手不足に悩まされていると聞いたことがある。僕のような乗客側からすると満員電車はすこしきついかもしれない。ただ運転手は、乗客の命を背負うプレッシャー、長い歴史を背負う覚悟などたくさんのことを抱えながら運転しているため、僕達の何十倍、何百倍、いや何千倍という苦労を感じていることを考えたときに僕達にできることはなんだろうか。僕は単純かもしれないが「ありがとう」と伝えることが一番なのではないかなと思う。今までより強く、より一層感謝の気持ちが強くなった。

【A 評価】

「事実」と「意味づけ」のバランスもよく、2つを織り交ぜながら書くことができていいる。細かい情景描写やその時の心情をさまざまな言葉に置き換えながら書くことができていいる。類似した心情を表す時にも、同じ語彙を活用するのではなく、違う言葉で言いまわしているなどの工夫が見られる。

【分析】

- ・C評価...学年を通してなし。A評価...各クラス10名程度。
- ・他者からの助言を踏まえて、相手意識が生まれ構成を考える時に反映させることができた学習者がほとんどであった。また、構成を踏まえて自分の考えを明確に伝えようとしている学習者が多く、これまでの学習が活かしている場面が見られた。
- ・自分の心情や情景などを表すことができる語彙を活用することについては課題が残った。来年度は、語彙を増やすことを目指していく必要がある。

単元プランシート(国語科3年)

実施時期 2月

単元名	今の日本に必要な法案を提出しよう。	
単元の目標	多様な考えをもつ相手を説得するための内容や構成、表現の工夫を、今の日本に必要な法案をスピーチする活動を通して、考え行うことができる。	
評価 規 準	知・技	①敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
	思・判・表	①多様な考え方を想定しながら材料を整理し、今の日本に必要な法案を明確にすることができる。 【話すこと—ア 情報の収集・内容の検討】 ②多様な聞き手を説得できるように、「対話型論証モデル」で作成した論理の展開を考え、話の構成を工夫することができる。【話すこと—イ 構成の検討】 ③自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。【話すこと—ウ 考えの形成・記述】 ④話の展開を予想しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。【聞くこと—エ 共有】
	主体	①敬語など相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使おうとしている。 ②多様な考えをもつ相手を説得するために、内容や構成、表現を工夫しようとしている。 ③学習目標に照らして学習の状況を把握し、今後の課題について具体的に示している。

時間	学習内容	評価計画		
		知・技	思・判・表	主体
1~4	○日本や世界についてのさまざまな情報を収集し、必要な法案を考える。「対話型論証モデル」の「自分の主張」「根拠」「論拠」を用いる。 ○グループ内で法案を発表する。その際、聞き手は反対の立場で聞くようにし、根拠や論理展開がうまくいっているか、また、どんな疑問や対立意見が出てくるのかを考えさせ、発表者に伝える。		① ワークシート (対話型論証モデル)	② 観察
5~6	○聞き手を説得できるようなスピーチの構成を考える。 必要であれば、スライドを作成する。		②	② 観察
7~10	○一人ずつスピーチを行う。 ○聞き手は、その法案を採用すべきかどうかを判断する。	① スピーチ	②・③スピーチ ④ 評価用紙	① スピーチ
11	○採用・不採用かの投票を行う。 ○単元のふりかえりをする。			③ 振り返りシート

評価基準(思考・判断・表現①について)

B	A
多様な立場として主に対立意見を想定し、その意見に対して、自身の立場からの反駁を考え、伝える内容の中に書き込んでいる。	Bに加え、反駁に、客観性や信頼性を確認した情報を根拠とした考えが書き込んでいる。

課題：今の日本に必要な法案は何か。

根拠 (事実、データ)

(2018年03月)

・スウェーデンなどでは数千人が、2700万円を500人としている。
・米国では給付額を標準的に年間1人あたり25日使っている。
→ 合計額が2700万円と定まれば、給付額を標準年間から18%
→ 給付額を1万円とするか、年間約100億円で1人あたり
4万6千円、22年のお金、サリマニ（46万円）1000万円
04年
・各自治体で使っている。
・日本には9万144人しか行方不明。

自分の主張

マイク法

全国民にカーナビを埋め込む
(2020の普及率100%)

- ・犯罪の減少
- ・行方不明の解消
- ↳ 災害時や誘拐時に
発見を早くできる
- ・保険書などを持たなくていい
- ・なりすましなどを防止できる

对立意見

② われどい？

点線内は、既習しており、複数の情報を関係させながら主張につなげることが概ねできている。

論拠・理由づけ

- 海外では2170チップにより、2合言いかせたり、
- 家や車のガキも2170チップで済むため、物と金が失くさく
- くた。という。
- 病院のカルテ情報などを入られている
- GPSを使えるようにすると救助がなにかいしやなくなる(今8/8/11)
- 2170チップが入っているかどうかは見たためじゃあな
- くない。
- 案ずい
- ・自1-18。

反駁

- ① 体から出た。→ 使えなくす本がいい
- ② 25~30年は作動するようにしている
- ③ 針体適合が7で覆われている。
- ④ 1に2を5分間おいておくという電圧は
不要

両方とも、対立意見については記述できている。反駁についても、自身の立場からの考えを記述している。ただし、「～したい」という願望や本当にそうなっているのかを確かめることができない情報になっている。

課題：今の日本に必要な法案は何か。

根拠（事実・データ）

[illegible]

自分の主張

夫婦間、育事、家事の分担
有休の申請をしやすいとする
最低でも半分の有休を使用
育休中の給料6割支給

夫婦共同育児法

对立复数

- ・自由で承認されたもの (労働のみ)
- ・最大限まで?
- ・育児の負担など?
- ・育休中の仕事はどの程度?

論拠・理由づけ

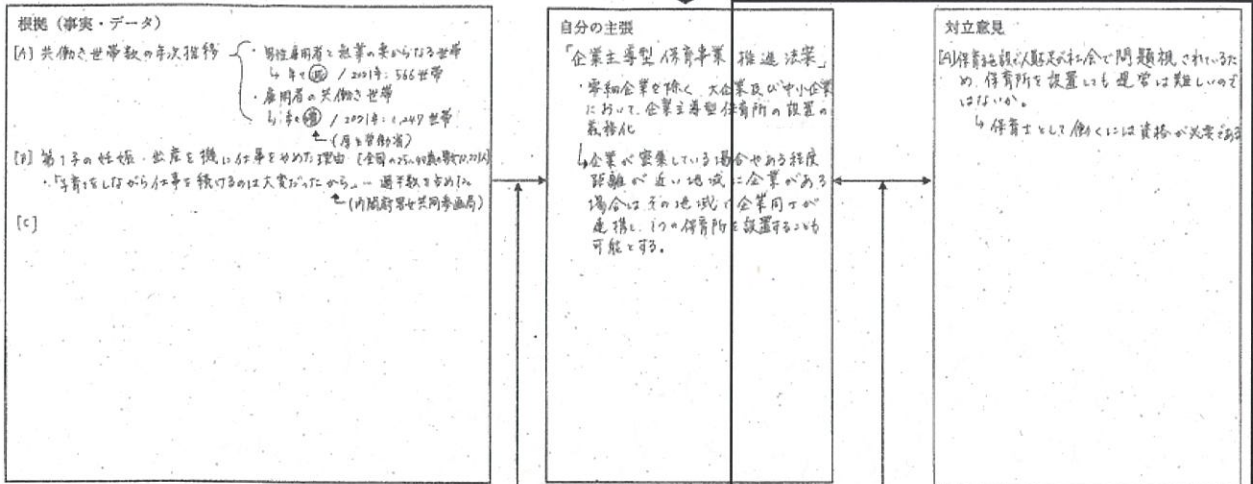
母と父の両方を取捨不得手。老 (9) → 母親、不担 (10) ...
 ② 少年高齡化 に注意
 育児、時間 10 分 30 分 → 障害障害 (11) の危険性
 → 個人のカラダ 最も心配 障害 (12) ...
 ③ ④、夫婦が一緒に子育てをする "重要"
 保育者 "取り組み" という雰囲気 取組 (13) (14)
 → 法律 (15) 基本法 (16) 子育て (17) 公平 !!
 節制 (18) 企業 (19) 社会 (20) !!

反駁

- ・南條が大事代、青佐が大事にしてはいい。
- ・12-14行の仁孝がみづの申請後、可能と
していい。
- ・総評要あり
- ・矢野、青佐は12月20日予定している。
12月27日半年ほどとある。後、南條が大事だと
殿上人もいざ知らうが、国全様へ
意を伝へ

生徒のワークシート【A】

課題：今の日本に必要な法案は何か。



論拠・理由づけ

[A] 時代の変化とともに社会も変化し、失業者が増加している。一方で、専業主婦世帯の減少傾向にある。

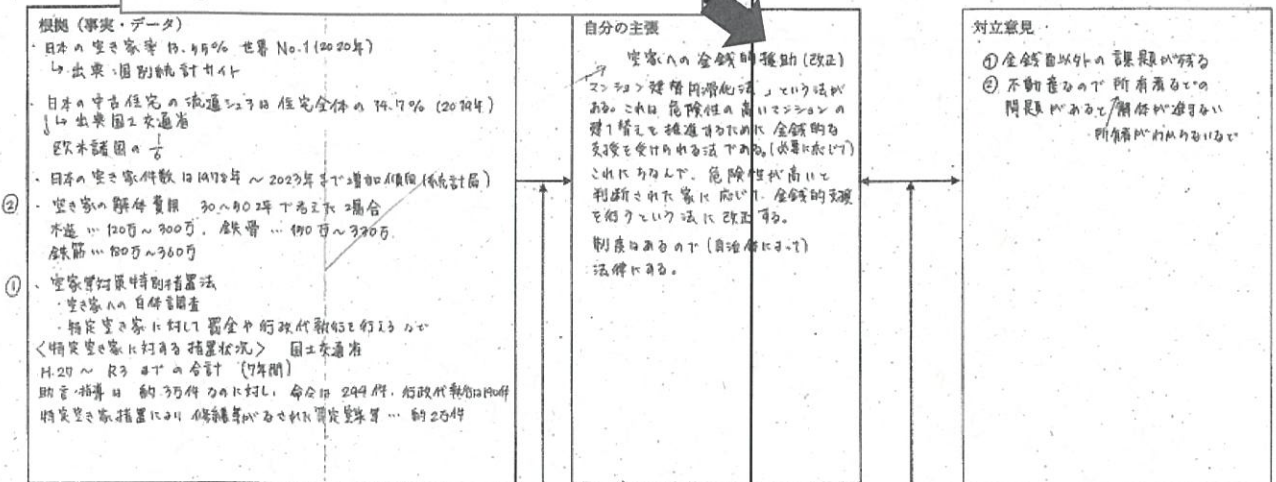
[B] 今年をめぐるには、子どもの女性が出産した。その人の多くが子育ての仕事の両立は難しいと感じている。

反駁——「俾青補助」

(4) 保育士の資格が13,000円ほど。保育士に携わることはできない
 けれど、はたして、一先資格でも「保育補助」として「保育業務」
 に携わることはできる。[保育補助]は次のように存在している。
 (13)
 ・「保育補助」を求人している施設もある
 → 保育施設の施設がある
 → 子育て支援員研修を修了 → 採用に有利になる
 → 自身も子育て経験が活かせる就職。自分も人にも役立つ
 → 多岐に渡る
 (14) 仕事内容は基本的に「保育士」と同様（「子育て支援員研修」
 雇用形態：フルタイムパート → 給与想入は一先保育士より
 ・平均収入：391.9万円 / 時給 (800~1200円程度
 (土曜出勤) 1500円

両方とも、対立意見については記述できている。反駁についても、自身の立場からの考えを記述している。加えて、その考えを支える情報を集め、説得力あるものにしようとしている。

必要な法案は何か。



論拠・理由づけ

日本の空襲被害問題は老若男女に見えたる問題である。
日本の空襲被害対策別指図は、空襲者の生活改善の目的、必要に応じて
取り上げることが可能である。空襲者、一方、H.27年以降で
この点に利便性が与えられ、家も非常に少ない。
② 4. 空襲者の身体性には、新金に代り、137年と6年、17年
の間に、この点に空襲者の放棄が、既に17年と17年、理由に、金銭的
負担が与えられている。

反駁

① マクロで建替用増設に与る効果にある種差を得
ているため、それは金銭的な援助と見做す。
3ポイント → 1位は増設に「関与してない」
2. 2位は費用に「関与してない」
1. 増設 93%
2. 費用 88.5%
3. 税 91.5%

② 空室費削減特別法により「危険性」がある場合は
取り壊せる法律がある。